様式第2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第11条 活動報告)

団体名	和	国際農業工学会
	英	Commission Internationale du Génie Rural (略称 CIGR)
	団体 HP (URL)	http://www.cigr.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 ☒ 有 ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		昨年度、各国政府・団体・大学への提言をより強力なものとするため、これまで功績があった会員で構成される農業・生物工学国際アカデミーを創設した。さらに近年重要性を増している非食品生物材料の利用に関するハンドブックの2018年出版を目指し編集委員会を発足させた。また、FAO, OECD, UNESCO と連携しており、地球温暖化に伴う家畜生産性への影響を Section II が検討し、その成果は関係する国や機関が活用している。さらにローマクラブにつぐ国際的提言団体である Club of Bologna と連携し、農産物の安全の確保に関する研究事業に Section VI の食品加工専門委員会が対応している。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		東欧、東南アジア諸国ではバイオマス・エネルギーの利用が進んでおり研究成果に基づいた提言を行った。21世紀に入り東南アジアでの農業機械化が急進展している。農業機械化の進んだ東アジアとは気候、土壌等が異なるため、独自の研究が必要で、研究の進め方を助言・支援している。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		これまで国際農業工学会は畑作中心であったが、前述のように東南アジアでの農業機械化の進展に対応するため、ASEAN 各国の大学の研究の重要性が増している。日本で蓄積した研究・技術を基に、日本人役員の立場を活用して学術研究、機械開発を支援している。さらに CIGR に参加することの重要性をたとえば、フィリピン、インドネシア、タイなどの会議で講演し、働きかけている。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への効果やメリットについて		我が国は当該学術分野の研究・技術開発で世界をけん引している。また CIGR 事務局・事務局長を2006年から引き受け、かつ理事・監事にも每期3人が就任しており、CIGR は我が国を中心に運営されているといっても過言ではない。CIGR の活動を日本学術会議 (Science Council of Japan) が支援していることは、世界に知られており、SCJ のプレゼンスを高めている。CIGR から入手できる世界の情報は国内学会活動に役立っており、ひいては日本農業の進展に貢献している。
その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)		日本学術会議 CIGR 分科会では、若手研究者の国際活動の場を広げるために日本人若手研究者を中心とする「Plant Factory and intelligent greenhouse」ワーキンググループを発足させることを決め、現在準備が終わり2016年 CIGR 総会での承認待ちとなっている。

様式第2 (第12条関係)

2 今後の予定について (内規第11条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	2022年に第20回 (XX) World Congressの招致に向けて準備を進めている。World Congress開催時に総会、理事会も同時に開催される。
日本人の役員立候補等の予定について	事務局長と会長は同地域から出さないと規定があった。事務局長任期が2017年で終了するため、World Congressを招致にあわせて、会長候補 (2019-24年、次期、前会長の期間を含む) をノミネートすることで準備を進めている。理事、監事は毎期3人を出しており、時期 (2019-2022年) も3人程度が就任することで準備している。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	前述の若手研究者を中心に進めている「Plant Factory and intelligent greenhouse」ワーキンググループ活動を充実させ、2022年の総会で規定に活動を明記する8番目のTechnical Sectionに昇格させる計画で準備を進めている。

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第11条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	2018年 (開催地: Antalya, Turkey) 2016年 (開催地: Aarhus, Denmark) 2014年 (開催地: Beijing, China) 2012年 (開催地: Valencia, Spain)
	理事会・役員会等開催状況	2018年 (開催地: Antalya, Turkey) 2016年 (開催地: Aarhus, Denmark) 2015年 (開催地: St. Petersburg, Russia) 2014年 (開催地: Beijing, China) 2013年 (開催地: Praha, Czech) 2012年 (開催地: Valencia, Spain) 2011年 (開催地: Tokyo, Japan) で研究集会が開催され、同時に執行役員会、理事会を開催した。
	各種委員会開催状況	2018年 (開催地: Antalya, Turkey)、2016年 (開催地: Aarhus, Denmark)、2014年 (開催地: Beijing, China)、2012年 (開催地: Valencia, Spain) で Technical Section、Working Groupの集会を開催した。Technical Sectionは毎年の開催が規定されており CIGR Co-sponsored Conferenceで個別に、例えば2015年では、St. Petersburgで Section V、Rouse, Bulgariaで Section IV、Auckland, New Zealandで Section VI等を開催した。
	研究集会・会議等開催状況	2018年 (開催地: Antalya, Turkey) 2016年 (開催地: Aarhus, Denmark) 2015年 (開催地: St. Petersburg, Russia) 2014年 (開催地: Beijing, China) 2013年 (開催地: Praha, Czech) 2012年 (開催地: Valencia, Spain) 2011年 (開催地: Tokyo, Japan) で Congress, Conferenceを開催した。Technical Section Co-sponsored、Supported集会は年に数回開催されている。

様式第2 (第12条関係)

上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年 XIX CIGR Congress (開催地: Antalya, Turkey) ・ 2016年 4th CIGR Conference (開催地: Aarhus, Denmark) (代表派遣: 梅田幹雄) ・ 2015年 CIOSTA Conference (開催地: St. Petersburg) 2人 (代表派遣: 梅田幹雄) ・ 2014年 XVIII CIGR Congress (開催地: Beijing) 40人 (代表派遣: 梅田幹雄) ・ 2013年 CIGR Conference (開催地: Praha) 2人 (代表派遣: 木村俊範) ・ 2012年 3rd CIGR Conference (開催地: Valencia) 12人 (代表派遣: 木村俊範。他2人) ・ 2011年 Conference (開催地: Tokyo, Japan)、70人 (代表派遣0人、1人は代理出席) 			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去5年)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	事務局長	2014～2017	梅田幹雄	(23期) 会員・ <u>連携</u>
	事務局長	2010～2013	木村俊範	(22期) 会員・ <u>連携</u>
	理事	2015～2018	二宮正士	(23期) 会員・ <u>連携</u>
	理事	2015～2018	木村俊範	(22期) 会員・ <u>連携</u>
	理事	2005～2014	岸田義典	(23期) 会員・ <u>連携</u>
	監査役	2015～2018	井上英二	() 期) 会員・ <u>連携</u>
	監査役 Section III セクレ タリー	2011～2014	真木太一 野口伸	(23期) 会員・ <u>連携</u>
出版物	1 定期的 (年4回) 主な出版物名 CIGR Newsletter CIGR Journal (電子媒体)			
	2 不定期 () 主な出版物名 CIGR Handbook (I～VI) CIGR VII Non-food material 編集委員会発足、2018年出版予定			
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (http://www.cigr.org)				

様式第2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	CIGR 分科会
	委員長名	野口 伸
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) 平成27年2月2日(第1回)、5月15日(第2回)、平成28年3月4日(第3回) ・XX CIGR World Congress 2022 招致方針について ・WG「Plant Factory and intelligent greenhouse」設置提案書について ・2017年CIGR シンポジウムの愛媛県松山市開催について ・CIGR 事務局移転について
内規第3 (国際学術団体の要件関係)	国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である ☒ 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又はURLを記載 (http://www.)	
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) ☒ 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又はURLを記載 (http://www.)	
	下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印) ア 個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有するもの ウ ☒ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの	
	10カ国を超える各国代表会員が加入している ☒ 1. 該当する 2. 該当しない	
	加入国数及び主要な各国代表会員を10記載	(地域または国別学会が会員となっているので31の地域・国別学会・国連関連団体が正式会員で、96ヶ国が参加している) ・ American Society of Agricultural and Biological Engineers (ASABE) ・ Australian Society for Engineering in Agriculture (SEAg)

様式第 2 (第12条関係)

		<ul style="list-style-type: none"> • Brazilian Association of Agricultural Engineering (SBEA) • Nigerian Society of Agricultural Engineers (NSAE) • Korean Society for Agricultural Machinery (KSAM) National • Association Nationale des Ameliorations Foncieres, de I' lrrigation, du Drainageet de I' Environment (ANAFIDE)/Morocco • Committee of Agricultural Engineering of the Polish Academy of Sciences (KTR PAN)/Poland • Canadian Society for Bioengineering (CSBE)/Canada • Chinese Society of Agricultural Engineering (CSAE)/China • Czech Agricultural Society (CZS)/Czech
--	--	---